

A-23 東北農村の就寝の傾向について

東北大学 持田 照夫

平面型と家族型とから就寝について検討した。平面は6つの型をとったが、その中にナンドを持つ型ともたない型とがあり、特にこの点に着目した。就寝の傾向を略記すれば、

(1) 2世代家族は1~2室就寝、3世代、4世代家族ではそれぞれ2~3、3~4室就寝を行い、各型とも混寝や異性寝を避ける傾向が強い。

(2) ナンド型、非ナンド型を問わず、対角線室就寝により、また便所への通路に他寝室を通らないようにするなど、Privacyを保つのに苦心している。

(3) しかし条件は悪い。家族数が多くなると、若夫婦はナンド型ではナンドに、非ナンド型ではオカミに（いづれも寝室としては適当でない）ねることを余儀なくされている。

(4) 南側の室にねるようになる傾向をもっているが、大きな平面でのみ充たされている。

(5) 子供室はまだ与えられていない。